

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団 体 名	地域いきいきプロジェクト		
事 業 名	地域いきいきプロジェクト		
実施期間	令和6年6月から令和7年2月まで		
事業の目的及び期待する効果	<p>■事業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 町内に在住する子育て世代のニーズや子どものキャリア形成に役立つ新たなイベントや行事を実施すること 2. 担い手が不足して存続が懸念される町会行事や新たにイベントを立ち上げた、もしくは立ち上げようとする町会を支援すること 3. 学校を訪問して地域の課題をテーマにしたキャリア教育を実施すること 4. 1.～3.を通じて持続可能な地域コミュニティの構築に貢献すること <p>■事業の効果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生が子育て世代のニーズや子どものキャリア形成に役立つ新たなイベントや行事を企画し運営することで、町会活動に関心を持つ子育て世代や子ども世代を増やすことができる 2. 古くから続く方法で実施してきた町会行事に対して、大学生が若者のライフスタイルや価値観に合わせた実施方法を提案することで、持続可能な町会行事に変えることができる 3. これらの活動を通じて親交を深めることができた中高生を町会行事に巻き込むことで、町会行事の担い手の育成に貢献することができる <p>町内会館を本プロジェクトのイベントの拠点にすることで、会館の利用促進に繋がる</p>		
実施額	事業費	202,778 円	助成額 202,778円

事業内容

① 町会単位で実施する活動

■赤岩町会 七夕祭りイベント・ハッピーBOOKBOOKハロウィン

【当初の計画にはなかったため実績のみ】

昨年2月に行われたコミュニティリーダー研修会で知り合ったあかいわ文庫BOOKBOOK（ぶくぶく）の長原さん、山田さんに活動に対する支援を申し入れたところ、大学生の力を借りてイベントを立ち上げたいと希望されたため、6月から新たなイベント立ち上げに向けて打ち合わせを重ねることとなった。まずは七夕祭りに学生リーダー2名が参加して子供たちと接するところから着手した。打ち合わせでアイデアを出し合ううちに、10月下旬にハロウィンイベントを実施することに決まり、七夕に参加した学生リーダーを中心に、BOOKBOOKのメンバーとともに内容を検討した。当日は多くの大学生が運営に携わり、49名の子供たちに、ぼっちゃ競技の運営やお菓子、ランタン製作などの体験をサポートした。

このように、子育て世代の母親が町会役員となって精力的に活動をしているものの、持続可能な活動として認知してもらうには、他の役員も巻き込まなければならず、もう少し時間がかかりそう。地域いきいきプロジェクトとしては、令和7年も引き続き、BOOKBOOKへの支援を行うことで、広く町会の皆さんからの支持を取り付け、持続可能な活動に発展できるよう貢献したい。

■入船六三町会 子供神輿行脚

【目標】令和6年は、大学生が主体となって近隣の小中学校（松ヶ枝中、菁園中、山の手小、花園小、奥沢小）に告知を行い、担ぎ手を確保する体制を構築する一方で、令和5年の経験から効率的な神輿行脚を提案することで持続可能な行事への足掛かりとする。

【実績】松ヶ枝中、菁園中、奥沢小から過去最多合計49名の担ぎ手が参加。ルートを2つに分けるとともに、短縮することで担ぎ手の負荷を減らしたところ、予定の時間内（13時～17時）で終了することができた。当日は猛暑だったため、学生たちが給水などのサポートを行ったことと、小学生・中学生は早めに切り上げて帰宅させたことで熱中症などのトラブルは無かったものの、休憩所の増設が必要と感じた。

令和7年は、住吉神社例大祭が平日に行われるため、担ぎ手の確保や学生の参加が難しいと予想される。学校としては、祭が平日行われる場合でも、昔のように午後を休みにするなどの対応ができないようだ。参加はあくまでも家庭の判断らしい。引き続き、学校やPTAと話し合い、結果によっては、子供神輿行脚の実施も含めて町会内で検討したい。

■松ヶ枝町会 マツガエベース

【目標】令和6年は、大学生が松ヶ枝中学校の学生も巻き込みながら、子供たちや子育て世代に喜ばれる催し物や食事などの提供を考案するために、企画の段階から参加する。

【実績】4月23日に、松ヶ枝中学校生徒会のマツガエベースにおける関わり方についてヒアリングを行った。学校としては、9月下旬の学校祭の準備が多忙な時期にあたるため、負担を軽くしていただきたいとの要望があり、事前の打ち合わせや準備を要せず、当日の参加ですぐに

できる屋台の販売員や調理補助の他に、生徒の希望によりイベントの司会を担当してもらうことになった。中学生と大学生とは、夏休みの学習支援や総合的な学習の時間で実施したキャリア教育の出張授業で顔見知りになっているので、終始楽しそうに協力しあって作業をしてくれた。

令和7年は、マツガエベースが学校運営協議会において、学校運営計画に盛り込まれたため、昨年に続き松ヶ枝中学校が生徒会を中心に参加することが確定した。中学生の負担を最小限に抑えながらも、マツガエベースの成功に貢献できるような枠組みを構築したい。

■真栄町会 雪かき雪遊びゲーム大会（サイエンスジュニアクラブ併催）

【目標】令和6年1月6日に、コロナ渦の影響で、外で遊ぶ機会に恵まれなかった子供たちを対象に、雪遊びの楽しさを経験させるとともに、保護者には屋根の雪下ろしの注意点や各種スコップの使い方などを指導する「雪かき・雪遊びゲーム大会」を、大学生が主体的にイベント内容を企画し運営。今年度は規模を拡大して実施する。

【実績】昨年に続き2回目の開催。今年はサイエンスジュニアクラブの題材でもある「センサーグローブ」を使った力や重さの計測実験を行い、子供たちにサイエンスの面白さを伝える取組を加えてみた。参加した小中学生9名のうち約半数が理科に興味があると答え、実際にセンサーに触れて測定値がグラフに表示される様子を真剣に観察してくれた。理科離れが進んでいると言われている現代っ子に、来年度もジュニアサイエンスクラブを継続する励みになった。室内ゲームでは、大学生とともに子供たちがゲームに夢中になる様子に親たちも楽しそうで、中には真剣にダーツの投げ方を指導する両親の姿もあった。室外では、雪に賞品の番号札を入れたカプセルを雪山に埋め込み、カプセルを探す宝探しを行ったところ、ヨーイドンの掛け声とともに一斉に子供たちがバラバラにスタートしたため、写真撮影が追い付かないほどの熱中ぶりであった。真栄町会には子育て世代が10世帯しかないようで、単独で子供たちを集めるのが難しいため、他の町会や小学校と連携した告知が必要であると感じた。南小樽連合町会に所属する周辺町会や潮見台小学校などとの連携を強化したい。

■新潮町会 親子料理教室・ぼっちゃで遊ぼう・新潮町会クリスマスイベント

【目標】町会の方針として会館を子供の居場所にしたい意向があり、そのためには会館をできるだけ多くの子どもや保護者に利用、知ってもらうための新たなイベントを検討中。親子でお菓子などを製作する料理教室が候補として挙げられている。まちおこし研究会としても企画・運営のサポートを行う予定である。

【実績】新潮町会佐々木会長の意気込みに学生たちが共感した結果、親子料理教室、ぼっちゃで遊ぼう、クリスマスパーティーと3件の新規イベントを立ち上げた。クリスマスパーティーには、小樽商大国際交流サークルから留学生2名を含む、4名も企画段階から携わっている。わずか二百数十世帯の町会にも関わらず、毎回10名以上の子供たちが参加し、口コミで徐々に人数が増えつつある。

人数が増えている理由としては、「また参加したい」、「今度はいつやる

の？」と参加した子供たちが新潮町会のイベントを楽しみにするリピーターになったことと、町会以外の参加者も受け入れていることである。

子供にとって満足度の高い（子供が満足できたら保護者も満足）イベントを実施できているのは、佐々木会長と大学生が ZOOM や LINE、対面で十分な企画検討を行い、子供目線のイベントに創り上げているからと評価している。

令和 7 年は、引き続きこれらのイベントを継続するにあたり、LINE WORKS を活用した電子回覧板を立ち上げ、新潮町会以外の子育て世代にイベント情報を配信するとともに、潮見台小学校とはキャリア教育の実施も含めて連携した告知の強化によって参加者増を目指し、さらなる会館活用のイベントも検討したい。

② 複数の町会で実施する活動

■サイエンスジュニアクラブ 入船六三町会会館・真栄町会

【目標】サイエンスに興味のある子どもたちを集めることで、町内会館の利用を促進するための活動。

国際スポーツ雪かき選手権（スポ雪）で使用されたセンサーグローブ（スコップで持ち上げた雪の重さを測定できる手袋）を開発した北海道科学大学木村研究室の指導により、センサーによる測定の原理を学び、プリント基板への電気配線のはんだ付けなどの作業を通じて、自分自身の力で来年のスポ雪で自分が使用するセンサーグローブを製作することを目標とする。

令和 6 年のスポ雪に参加した松ヶ枝中学校、北陵中学校、菁園中学校、潮見台中学校に呼びかけて参加者を募り、入船六三町会、石山町会、潮見台町会での開催を見込む。

実施回数は 3 回合計 15 名の受講生を目標とし、実施時期は未定。

【実績】11月23日に入船六三町会会館において、サイエンスジュニアクラブを開催した。4名の参加希望者のうち2名が欠席したため2名が参加して、はんだの使い方やセンサーグローブの体験を楽しんだ。

③ 小中学生と交流を深める活動

■潮ねりこみ

【目標】令和 5 年の潮ねりこみに、まちおこし研究会のメンバー 12 名が、山の手小、松ヶ枝中合同チームに参加して、子供たちの熱中症を警戒、見守りを行った。また、入船六三町会に軽トラックの出動を要請して、参加者の荷物や飲料水の運搬を手伝った。令和 6 年も合同チームに参加することで、入船六三町会や松ヶ枝町会の子育て世代にまちおこし研究会の存在をアピールすることで、町会で実施するイベントや行事への参加を促したい。

【実績】学生たちは、小中合同で 110 名の子供たちが参加する梯団に帯同して、熱を冷ます霧吹きや飲料水の配送を担当した。また、入船六三町会から貸し出したトラックが、鳴子や飲料水や荷物の運搬に役立ったことで、PTA や保護者の皆さん、学校関係者から感謝され、来年も引き続き参加を要請されている。入船六三町会は高齢化が進み、潮ねりこみに参加することはできないが、トラックに花を飾り付けるなど、子供たちのために精一杯の努力を行い、気持ちを伝えている。協力できる

ところは惜しまず協力することで、互いが地域内の繋がりを意識する関係性の構築に繋がっている。

■キャリア教育・ふるさと教育 松ヶ枝中学校 2回

【当初の計画にはなかったため実績のみ】

教育委員会から松ヶ枝中学校に支給された予算で実施しようとしていたため、本事業からは除外されていた。しかし、中学生が地域活動に参加するキッカケになる重要な活動であることが示されたので、実績を追記しておきたい。

コミュニティスクールの導入後、地域住民の要望を学校運営計画に取り入れる学校が増えている。松ヶ枝中学校では、キャリア教育とふるさと教育に力を入れる方針を打ち出したため、まちおこし研究会のメンバーが学年ごとに、まちおこし研究会の活動について目的や体験、活動を通じて身に着いた力やキャリア形成に役立ったことなどを説明したことで、中学生のまちおこしに対する関心が高まったようだ。また、この取組では、中学生が身近な地域課題を解決するアイデアを話し合うワークショップを実施している。まちおこしへの関心が高まったところでワークショップを実施すると、中学生は地域の実態に思いを巡らし、気づいた地域の課題を自分ごととして捉えることにより、行動に移そうとする生徒が多いことがわかった。以下は生徒のアンケートの一部である。全員のアンケートは別紙を参照のこと。

- いい体験になった。今日の話聞いて、もっと積極的に地域活動参加したい。
- 地域活性化はとても難しいから協力してひとりひとりが頑張らないといけない
- 高齢化社会を自分たちで補っていくことが大切だと思った。
- 将来のことを考えると自分・周りのためにも地域ボランティアなどたくさん経験することは大切だと思って、その中でポジティブに考えて行動することも大切だと思った。
- 地域行事に積極的に取り組むことの大切さや少子高齢化が進んでいる中でお互い助け合って生活しないとイケないなと思った。特に今回の授業で学んだスポ雪のことについては助け合いが大事だと思った
- 高齢者は大変な思いをしているので、高齢者が困っていれば助けたいと思いました。
- 身近にあることを皆で意見を出し合い、自分たちが出来そうなことは進んで取り組んでいきたい。
- 今日の学習で、私達の地域でこんなことをやっているんだな、こんな事が起きていたんだなと思い、できることがあれば私もやってみたいと思いました。
- スポ雪について知り、参加したいと思った。高齢者のこれからを改善するために何をすればよいか考えることができた。
- まちおこし研究会が何をしているのかよく分かった。2月には雪かき選手権があるそうなので地域のイベントにも積極的に参加したい。2時間とても楽しかった。
- 小樽市の高齢化、それによって起こる課題、解決策について深く考えることができてこれからも意識して過ごそうと思えた

- 地域での行事などでは、地域の人々と積極的に交流できるので、参加したいと思った。
- 高齢者のために自分たちにできることを考えてみて、それを実行できたらいいと思った。
- それを実行できたら高齢者だけでなく一般人の方や自分たちのためにもなることが知れた。
- 高齢化で雪かきができる人が減ったので雪かきをやってみたいと思った

このように、まちおこし研究会が行う授業やワークショップは、中学生に地域の実情に対して、気づきを与え、考えて行動する人間を育成するキッカケになっている。地域いきいきプロジェクトの発展には欠かせない活動であり、学校側の高評価もあつて、令和7年も松ヶ枝中学校で継続する他、潮見台小学校での実施も決まっている。

○事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
6月15日	親子料理教室 (新潮町会)	潮見台中、潮見台小を中心に 親子参加者10名を目標	21名 保護者等含む
7月15日	子供神輿行脚 (入船六三町会)	菁園中、松ヶ枝中、奥沢小、 山の手小、花園小から担ぎ手 15名の参加を目標	49名 小中学生のみ
7月21日	ぼっちゃで遊ぼう (新潮町会)	町会内外から親子連れ・高齢 者などを含めて参加者約30を 目標	13名 子供のみ ※市長参加
7月27日	潮ねりこみ(入船六三町会、 松ヶ枝町会など)	松ヶ枝中、山の手小から踊り 手80名の参加を目標	110名 小中学生のみ
8月3日	七夕祭りイベント (赤岩町会)	あかいわ文庫 BOOKBOOK と共 催、町内から30名の子供たち の参加を目標	33名 子供のみ
9月7日	マツガエベース (松ヶ枝町会)	松ヶ枝中から企画運営に携わ る中学生5名の参加を目標	7名 中学生のみ
10月26日	ハッピーBOOKBOOK ハロウイ ン(赤岩町会)	あかいわ文庫 BOOKBOOK と共 催、町内から50名の子供たち が参加	48名 子供のみ ※市長参加
11月12日	キャリア教育・ふるさと教育 (松ヶ枝中学校)	1・2年生を対象	1年生53名 2年生40名
11月23日	サイエンスジュニアクラブ (入船六三町会会館)	3回の開催を目標。1回あた り5名を目標	2名 中高生
11月26日	キャリア教育・ふるさと教育 (松ヶ枝中学校)	3年生を対象	3年生47名
12月22日	新潮町会クリスマスイベン ト(新潮町会)	小樽商科大国際交流サークル 合同企画。20名を目標	25名 保護者等含む ※市長参加
1月19日	雪かき雪遊びゲーム大会・サ イエンスジュニアクラブ (真栄町会)	センサーグローブを使った雪 かきゲーム等を実施。参加者 20名を目標	15名 保護者等含む

○事業評価について

1. 事業の目的の達成度

1. 町内に在住する子育て世代のニーズや子どものキャリア形成に役立つ新たなイベントや行事を実施すること

子育て世代のニーズに合ったイベントの実施：あかいわ文庫BOOKBOOKのメンバーは子育て世代であり、ハロウィンパーティーを企画・運営することで達成できている。

子どものキャリア形成に役立つ新たなイベントの実施：松ヶ枝中学校で実施したキャリア教育・ふるさと教育では、まちおこし研究会のメンバーが自身の中学時代から現在に至るまでの体験談を語り、さらに中学生の疑問や悩みに答えるワークショップを実施したことで、生徒会が中心となって町会行事であるマツガエベースに参加して、大学生と一緒に活動するなど、地域活動に参加するキッカケになったと考える。また、サイエンスジュニアクラブを通じて、科学に興味のある子どもにセンサーグローブに触れる機会を与えることができた。

2. 担い手が不足して存続が懸念される町会行事や新たにイベントを立ち上げた、もしくは立ち上げようとする町会を支援すること

子供神輿行脚：入船六三町会の役員が高齢化しており、子供神輿行脚の他にも、テント設営・撤去も人手が足りなくなりつつある。年々神輿の担ぎ手も少なくなってきたが、近隣小中学校に積極的に呼びかけを行った結果、コロナ以前の活況を取り戻す支援ができた。テント設営と撤去も大学生が手伝うことで、高齢役員の手助けができていた。

新潮町会：役員の高齢化が進んでおり、新たなイベントを立ち上げるのは困難とされていたが、大学生の積極的な参加・協力によって新たなイベントを3つ立ち上げることに成功した。

3. 学校を訪問して地域の課題をテーマにしたキャリア教育を実施すること

松ヶ枝中学校で実施したキャリア教育・ふるさと教育では、まちおこし研究会のメンバーが自身の中学時代から現在に至るまでの体験談を語るキャリア教育と、地元の課題を解決するアイデアを発表するワークショップを実施。さらに中学生の質問に答えることで、将来への不安や悩み、疑問の解決に努めた。この授業を通じて、大学生と中学生との交流が深まったことで、生徒会を中心に町会行事であるマツガエベースに大学生と一緒に参加するなど、町会の活動に興味を持たせることができた。

大学生が中学生に行うキャリア教育は、「将来の大人の自分」ではなく「5年後の自分」を想像し、そこに自分のキャリアを重ね合わせることで実態像が浮かびやすのではないかと考える。

現在、私が大学で実施しているキャリア教育では、大学生と年齢が近いOBを招き、大学生の不安や悩みを解消するワークショップを実施している。私の授業のなかでも最も評価の高いコンテンツになっている。

4. 1.～3.を通じて持続可能な地域コミュニティの構築に貢献すること

子育て世代を町会活動に携わってもらうことを目標の一つにしている。

すでに、世代交代が行われた松ヶ枝町会は引き続き、マツガエベースの企画・運営に協力する。

赤岩町会では、あかいわ文庫BOOKBOOKのメンバーが、役員になって町会運営に参加しているが、今年度立ち上げたイベントを持続化するために増員を目指したい。

新潮町会では、子供がリピーターになっているので、徐々に町会に興味を持つ保護者が出現することを期待。

2. 事業の効果（参加人数の面から）

全事業の参加率＝323名／265＝122%（別表参照）

各行事の参加者数は、主催する町会などと、実施する会館の広さやイベントの内容による対応可能者数を相談して決めている。

当然、町会の世帯数が多いほど会館は広く子供の数も多くなる。しかし、町会役員が高齢化すると、連絡手段が回覧板に限られたり、今の子供たちが喜ぶ企画を立案したりすることが難しくなる。そうになると、潜在的に子供の世帯が多くても、子供向けの行事を行うことができず、益々、町会離れが進む悪循環に陥る可能性がある。あかいわ文庫 BOOKBOOK のメンバーも、「自分が活動を始めるまでは、町会で何をやっているのか？わからなかった。」と話している。

赤岩町会で大勢の子供を集められている要因が二つある。

1. 小学校の協力で全校生徒にチラシが配布されること
2. 赤岩町会以外の子供も受け入れていること

である。

赤岩町会では、会場の広さや学生を含めたスタッフで対応できるのは、50名が限界であると認識しているが、今年度は電子回覧板を導入して集客効果向上が可能かどうか？実証実験も行いたい。

3. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

■あかいわ文庫 BOOKBOOK（ぶくぶく）長原さんの投稿から ～ハロウィンパーティーを終えて～
まちおこし研究会の皆様

今日は本当にありがとうございました。

たくさん子ども達に来てくれて、とっても楽しんでいる姿を見ることができました。

私たち4人ではここまでのイベントを実施することも無事に終わることもできなかつたです。

裏方の仕事も何か手伝うことはありませんか？、私たちでやります、と声をかけてくれる学生も多く、立派だと思いましたが、素敵なサークルだと思いました。のあちゃんの一生懸命な姿が良い影響を与えているんですね。

これからの活動も頑張ってください😊

今後のイベントの参考にしますので、良い意見も悪い意見も聞かせて頂きたいです。特にもっとこうした方が良かった、大変だったことなどの方が嬉しいです。

急ぎませんので、のあちゃんまとめて頂けますか？

長い時間、ヤンチャな赤岩の子ども達お相手本当にお疲れさまでした。

→別紙「あかいわハロウィンイベントを終えて」を参照のこと。

皆さんのご意見ありがとうございました。

限られた予算やスタッフの人数、時間配分や子ども達の安全面を総合的に考えると、スムーズに事故なく実施できたのではないかと思います。

一番難しかったのがお互いの意思疎通、ホウレンソウ不足でしたね。

これらの意見を踏まえて私たち BOOKBOOK でも話し合い、今後のイベント参考にしていきたいと思います。のあちゃん意見の取りまとめありがとうございました。

振り返りますと6月から始まり七夕祭、ハロウィンイベントと長い期間大変お世話になりました。

今年度の計画になかった私達の企画に多大なるご支援して頂いたことには町会役員、BOOKBOOK 一同心より

お礼申し上げます。

来年度の計画に正式に入れて頂けるのは嬉しい限りです。

会長、町会役員から要望等を聞き、文書にまとめますね。

直接お会い出来た方が細かく話し合えるのではと思っています。

■あかいわ文庫 BOOKBOOK (ぶくぶく) 山田さんの投稿から ~ハロウィンパーティーを終えて~ のあちゃんはじめ

まち研メンバーの皆さん今日は本当にありがとうございました😊✨

本当に仲の良い皆さんの雰囲気子どもたちに伝わって、子どもたちもお母さんも安心して、心から楽しんでくれたのではないかなと思います✨

私も楽しかったです😊

本当にありがとうございました!

またお会い出来る日を楽しみにしています

→改善点

七夕に続き学生と子供たちが揉み合いになっていました

学生が絡んだのかもしれませんが、不慮の事故に繋がる可能性がある
ので、双方注意する必要があると思います



おはようございます

改善点ありがとうございます🙇

学生さんとの絡みあっているお子さんは私達も注意してきているお子さんです

お笑い芸人のだいぶ昔コントで最後にニーブラと言って獲物の動物を腕を使って首元を押さえて仕留める形をとるコントなのですが2階大広間でも子どもが子どもに対してそれをやっていたので首をしめられている状態ですぐにやめさせかなりきつく叱りました。

学生さんと子どもたちとの集合写真の時も学生さんとそれをやって(首絞めるまえの前段階の踊り)

ましたのでそのお子さんがユーチューブか何かで覚えてきたものなのか、学生さんから教えてもらったものなのかはわかりませんが…

お子さんに対しての注意して見守り&対応してほしい事案の共有が必要でした

こちらがわの配慮不足でした…

これからの社会を担って行く若い皆さんと共に

ひとつのもの(イベント)を作り上げていく大変さもありながら、見知らぬ町内会の人たちや子どもたちに対して誰一人嫌な顔をせず、笑顔で喜んで取り組んでいる姿に改めてまちおこし研究会の必要性を感じました

皆様のご活躍微力ながら応援しています!

本当にありがとうございました

お世話になりました!

■松ヶ枝町会会長阿部さんの投稿から ~マツガエベースを終えて~

お疲れのところ

@かんな

@川村 氏🌸

ご丁寧にご連絡ありがとうございます✨

お返事できず申し訳ありません💧

第3回のマツガエベースに今年も、お力添えくださりありがとうございます

課題だらけのマツガエベースではありますが、皆がいてくれて開催できています。

今回は大所帯でマツガエベースを支えてくれて、どんなに心強かったか本当に感謝しております。
バタバタしておりましたが、一息つくタイミングなどで皆を見ていましたが
しっかり者のお父さん、お母さんのような立ち位置の子
長男、長女のような立ち位置の子
無邪気に遊ぶ未っ子のような子👧
それぞれの個性が
いいバランスでチームになっているんだなあー
と、とても魅力を感じました💡
就職しても、酒井くんのように、顔を出してくれる事もとても嬉しいです
皆に支えられ、学ばせていただき感謝しております。
この素敵なお縁をくださった
松代さんにも感謝申し上げます。
全ての皆様に心より感謝。

4. 今後の事業について

初年度の取組としては、ほとんどの企画において想定を上回る参加者を集めることができ、さらには、一緒に事業を進めてきたパートナーや参加者から感謝の言葉をいただくことができたので、本事業の目的達成に向けて前進している実感がある。この場を借りて、まちづくり研究会の学生の頑張りを褒め、本事業に協力していただいた町会関係者・学校関係者などご協力いただいた方々に感謝申し上げたい。

次年度の計画については、現在、これまで交流があった町会から要望を集めており、申請までにはとりまとめたい。

引き続き、事業の目的1～3を継続するとともに、新たに以下のテーマについても挑戦したい。

- ① 越境型の町会イベント：電子回覧板を立ち上げて、町会外の人々にも情報を届け、町会の枠を超えた参加者を募る試みを行う。
- ② 複数町会による合同イベント：役員の高齢化や担い手不足、加入世帯数の減少で行事を縮小せざるを得ない町会が、活動が盛んである近隣町会と協力して行事を開催できる受け皿作りを進めたい。
- ③ 学校運営計画への記載：松ヶ枝中学校では町内会長が学校運営協議会（コミュニティスクール）の委員として参加したことで、マツガエベースが学校運営計画に明記されることとなった。同一地区にある町会と学校が連携して行事参加への道を切り開いたことは画期的であり、他の地区にも拡散したい。